

地域沿岸漁場開発モデル調査

(三 厩 地 区)

(要 約)

足助 光久*・能登谷正浩・桐原 慎二・小田切譲二

三厩村地先における漁場開発の可能性および漁場総合開発利用案を策定することを目的として、昭和60、61年度の2ケ年にわたって、漁場の実態、漁家操業の実態、既整備漁場の概況、漁場整備開発推進体制の実態について調べた。当センターでは、これらの項目のうち漁場の実態として、地先の水深20m以浅の底質および生物環境について、スキューバ潜水で採取した試料をもとに調べたので、以下にその要約を記す。なお、詳細については「地域沿岸漁場開発モデル調査結果報告書(三厩地区)」(昭和63年3月、青森県)として報告した。

底 質

竜飛崎の西側海域では、一部砂れき地帯がみられるものの、全搬に転石および岩礁地帯で占められており、起伏の激しい複雑な海底形状を示している。竜飛崎から東側海域については、板柳から梨ノ木間にかけては、起伏のある岩礁地帯が水深15mまで卓越しているが、その沖側では幾分平坦なれき、転石地帯となっている。また、宇鉄から浜名までは、釜野浜、中浜の岩盤地帯を除き、比較的平坦な砂れき地帯が広がっている。

植 物

採集された海藻類は緑藻9種、紅藻40種、褐藻26種の合計75種で、この他種子植物2種が得られた。これらのうち分布範囲が広く着生量の多い種はホンダワラ類で、次いでマコンブ、ツルアラメ、ガゴメ等の大型褐藻類であった。

動 物

採集された動物は軟体動物6種、棘皮動物11種、原索動物1種、海綿動物1種の合計19種であった。これらのうち分布範囲が広く生息量の多い種はキタムラサキウニで、特に竜飛～上宇鉄沖に多く生息がみられた。サザエは竜飛崎周辺を主体に上宇鉄沖まで分布しているが生息密度は0.5～3.5個/ m^2 で、あまり高くなかった。

* 現 水産部漁業振興課